

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 28 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	アジア家族比較調査（CAFS）データベース構築
<b>代表者名</b>	落合恵美子
<b>事業概要</b> (600 字程度)	<p>アジア 5 カ国において実施してきたアジア比較家族調査（CAFS）で収集したデータをクリーニングし、データベース化して公開する。データベースは連携大学を中心に共通教材として使用する。また基礎的な比較分析を実施し、その結果をアジア共通教科書として出版する。</p> <p>昨年度までに、ベトナム、タイ、マレーシア、インドの 4 カ国のデータのクリーニングをほぼ終了した。本年度はそれらのデータを用いた基礎的比較分析の実施と、それに基づいた共通教科書執筆を行う。</p> <p>また基礎的比較分析結果の検討のため、全体研究会を実施する。</p> <p>また、トルコのアンカラにおいて新規調査を実施する（予算は科研 B）。</p>
<b>成果の概要</b> (800 字程度)	<p>(1) トルコにおける質問紙調査の実施 トルコのアンカラにおいて質問紙調査を実施した。ハジェッテペ大学のイズメット・コッチ教授が実査の統括を担当し、京都大学院生のウシル・ベイラクターが助手を務めた。トルコ調査に特有の質問項目の作成に関しては、トルコの地域研究を専門とする村上を中心に内容面での助言を行った。9 月までに実査を完了する予定であったが、現地の政情不安のために一時中断を余儀なくされ、完了は 10 月となった。その後、データクリーニングと基礎的分析を行なった。政情不安の中での調査実施には心配もあったが、コッチ教授が現地の情報を収集して実施可能と判断した。その後、状況はむしろ悪化しているので、アジア家族の共通性と多様性を理解するために極めて重要な中東地域において、（この数年では）最後かもしれないチャンスに調査できた意義は大きいと考える。トルコチームの健闘に感謝している。</p> <p>(2) CAFS データを用いたアジア家族の比較分析 既存データの分析が進んでいるタイ、ベトナム、マレーシアについては、成果出版に向けての作業を進め、出版社に入稿することができた。現在は査読結果を待っている。インドを加えた 4 カ国について、記述的な比較分析をまとめた成果出版に向けての執筆も進んでいる。</p> <p>(3) 全体会議開催 トルコ調査終了予定だった 9 月に全体会議開催を実施したが、実査終了が予定より遅れ、またコッチ教授の出国も難しかったため、トルコチームはスカイプ参加となった。また、トルコ調査の最初の成果を検討するための国内全体会議を 3 月に実施した。世代による意識や行動の変化が小さいというトルコの特徴が明らかになった。</p> <p>(4) 成果発表 7 月にウィーンで開催された世界社会学会における国際会議でセッションを設け（岩井八郎と Eun Ki-Soo がオーガナイザー）、プロジェクトのこれまでの成果を発表した。</p>

# アジア家族比較調査(CAFS) トルコにおける質問紙調査の実施

